



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

9月は がん征圧月間です

わたしと家族のために、
がんについて知っておきましょう

がんの早期発見や早期治療、生活習慣の改善により、がん撲滅を目指している日本対がん協会は、昭和35年から毎年9月を「がん征圧月間」と定め、がんとその予防について正しい知識の徹底と早期発見・早期治療の普及のための取り組みを行っています。

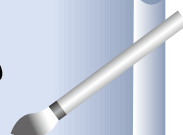
市民病院でも、がん征圧月間の関連行事として、毎年9月にイベントを実施しています。昨年度は「受けよう健診、私の健康は私がチェック！」をテーマに身体測定や骨密度測定、医師による肺がんについての公開講座と禁煙相談、緩和ケアや介護などの相談会を行いました。

今年度は、9月7日(水)9時から12時に開催します。主な内容として、医師による公開講座「乳がん検診のすすめ」と医療相談、乳がんの触診モデルを用いた乳がんの自己チェック方法の紹介、薬剤師による薬の相談、がん治療中の手足のスキンケア、がん治療の意思決定支援についての座談会、介護についての相談会などを予定しています。健康チェックコーナーでは、毎年人気の骨密度測定も行う予定です。

予約や参加費は不要ですので、たくさんのご参加をお待ちしています。



碧南の歴史へのいざない



問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

No.28 人物小伝 岡本兵松

安城市が「日本デンマーク」と呼ばれる所以となった明治用水。計画をしたのは和泉村（現安城市）の都築弥厚ですが、開削実行者は2人いました。そのうちの1人が、碧南市出身の岡本兵松です。

兵松は文政4年（1821年）に、大浜村鶴ヶ崎（現新川町）で生まれました。家は廻船問屋と醸造業を営み、28歳で家業を継ぎました。

その後、家業を弟に譲り、都築弥厚の身内が所有していた石井新田（現安城市石井町）の土地を購入し、その地へ引っ越しました。「公私雑録」（新川地区の古文書）には、妻と共に鶴ヶ崎から石井新田へ引っ越したについて書かれています。

しかし、石井新田は水利の無い荒地だったため、うまく作物は育ちませんでした。兵松は水路の必要性を強く感じ、都築弥厚が実現できなかった用水路の計画案を入手し、安定した水を得るために碧海台地に用水路を通して土地を豊かにしようと動き出しました。

兵松とときを同じくして挙母（現豊田市）の伊豫田与八郎は水害に悩み、悪水路開削計画を立てており、2人の計画は合併されました。ところが、幕末・維新期における行政組織の変動に2人はほんろうされ、7回目の請願でやっと受理されました。明治12年（1879年）、県主導による開削工事が開始され、翌年には本流の完成を見ることが出来ました。



△「公私雑録」内の
兵松に関する書状



△岡本兵松翁銅像
（安城市石井町石
井辻原遊園内）